

来月の利上げに向けて、状況をチェック～米FOMC議事録、要人発言

2018年2月19日(月)

昨年3回の利上げを行った米国。
今年も3回を中心に、2～4回の利上げが期待されている状況です。
利上げのカギを握る米FRBの2大責務が
「雇用の最大化」と「物価のターゲット付近での安定」
雇用に関しては、ほぼ完全雇用状態にあるといわれており、
実質的には物価動向がカギを握っていると見られます。

そうした中、2月14日に発表された米消費者物価指数(1月)は、
予想を上回る前年比+2.1%の高水準。食品とエネルギーを除いたコアの前年比も+1.8%と
予想を上回る水準を記録しました。
米国のインフレターゲットの対象であるPCEデフレーターは、
連鎖ウェイト方式を採用していることなどから、
一般的にCPIよりも低く出るため、
インフレターゲットである前年比2.0%はまだ遠いと思われる
(2月のPCEデフレーター発表は3月1日)とはいえ、
物価の堅調さが印象付けられたことで
利上げ期待が強まる展開となっています。

今週はそれほど目立った経済指標発表はありませんが
3月のFOMCに向けて注目したいイベントがあります。

一つは21日(日本時間22日)に発表される前回1月30日、31日開催分のFOMC議事録。

12月のFOMCで利上げを実施したこと、
FOMCメンバーによる経済成長、物価、金利などの予想(プロジェクション)が発表される回ではなかったことなどから
事前見通し通り金利据え置きを全会一致で決めた前回のFOMCですが、
次回3月のFOMCでの利上げが濃厚となる中、
タカ派的な姿勢が見られたかどうか、
議事録の内容に注目したいところです。

二つ目はFRB関係者の発言予定。
21日にハーカー・フィラデルフィア連銀総裁
22日にクオールズFRB副議長
ダドリーNY連銀総裁(FOMC副議長)とボスティック・アトランタ連銀総裁、
23日にウィリアムズSF連銀総裁が講演を予定しています。

このうち注目は今年のFOMCでの投票権を持つ
クオールズ副議長、ダドリー総裁、ボスティック総裁、ウィリアムズ総裁。

クオールズ副議長は昨年10月に就任。
銀行監督が担当で、金融政策についての言及が少なかったですが
今回の講演テーマはグローバルエコノミーであり、
米国経済についての言及もありそうで注目したいところ。
なお、国際通貨研究所の招きで、東京で講演を行うもので
午後2時15分からと、東京時間で発言が出てくる見込み。

ダドリー総裁、ウィリアムズ総裁は、昨年から段階的な利上げに前向きで
比較的タカ派的なコメントが見られますが、本来はハト派といわれていたメンバー。
ボスティック総裁は中立派と見られるメンバーです。

こうしたタカ派メンバーではない
(今年の投票メンバーで明らかにタカ派なのはメスター・クリーブランド連銀総裁とバーキン・リッチモンド連銀総裁)
参加メンバーの姿勢が、積極的な利上げに前向きとなると
3月の利上げはもちろん、今年この後の利上げ期待にもつながり、
ドル買いが進む可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ